

一般社団法人

# 香川県作業療法士会ニュース

発行：(一社)香川県作業療法士会広報部  
事務局：〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1  
四国医療専門学校 作業療法学会内  
(一社)香川県作業療法士会事務局

URL:<http://www18.ocn.ne.jp/~k-ot/> E-mail:[kagawa-ot@star.ocn.ne.jp](mailto:kagawa-ot@star.ocn.ne.jp)

## 「まあ、いっぺん学会に来まいよ」

副会長 前田 悠志

(一社)香川県作業療法士会は、職能団体として作業療法を普及啓発し、「県民への保健・医療・福祉向上の寄与」を基本としながら、会員の学術研鑽を通して対象者、利用者への質の高い作業療法を提供することで「県民への保健・医療・福祉の向上の寄与」も行っている。会員は県民のために作業療法を提供し広めていると言えよう。その核となるのが「香川県作業療法学会(以下、香川県学会)」であり、昨年1月で節目の20回を迎えた。同様に四国4県で運営している「四国作業療法学会」は今年9月で30回を迎える。年1回として20年、30年続いているから会員は自信を持って学会を有していることを改めて認識して良いと思う。

静岡県作業療法学会(以下、静岡県学会)の状況を、私は、ある研修会で知る機会を得た。約1600名の会員で約1/3が静岡県学会に参加していると言い「自称、日本一仲の良い県士会」とのこと。会員数や地域性など単純に比べられないが、学会が盛会であることは明確である。レセプションや子育て世代のママさんOTの交流や参加の場があることなど、参加者増のための工夫が垣間見えた。香川県学会は会員の約1/5前後の参加で推移している。講演は全国でも著明な講師をお招きし内容も充実していると思う。これに満足せず新しい企画や、若いOTにも魅力ある内容にするにはどうしていけばいいか、運営委員や理事が知恵を出し合うのは当然だが、香川県学会は会員みんなのものなので、会員各々にも意見や提案をいただきたいと思う。

私は、学びの場であり集いの場として機能することが、香川県学会をより充実させる方向性であると感じている。全国学会で同級生や同じ分野の先輩、後輩と久しぶりに会い語らうのも学会参加の楽しみであることは、言わずもがなであろう。香川県は日本一せまい県なので久しぶり感は薄いかもしれないが、それでも会員各々が顔を合わせる事が重要で、学会で見て聞いたことが刺激となり、次の日の臨床へとつながり、「県民への保健・医療・福祉向上の寄与」へと結びつくと思う。今年度は令和2年1月19日(日)丸亀市綾歌総合文化会館アイレックスにて「Various Occupational therapy～こんな作業療法しています～」というテーマで予定している。お互いにそんな話をしませんか。



# 先輩の声

No.36 三船病院

徳永 謙一  
(10年目)

冒頭でいきなりですが、若い世代の作業療法士の方へ聞いてみたいことがあります。みなさんは、資格取得後に「どんな作業療法士を目指したい?」と考えていますか?

自分は、資格を取得して今年で14年目になり、初めての職場で小児リハビリテーションを経験し、その後、養成校教員時代を経て、現在は精神科に勤めています。また、作業療法の現場から離れてみたくなり、別の仕事をしていた時期も少なからずあります。臨床以外では、県士会業務や学会、他団体の講習会、養成校卒業生団体の運営、発達障害児を対象とするイベントのボランティアなど色々と経験させていただく機会に恵まれました。プライベートでも興味のあることは、『思い立ったが吉日』でよく動き回っています。

上記の流れを客観的にみて「自分は、いろんな経験をしたいタイプ」と改めて思います。確かに、「経験したことないことは語れないし披露できないな」との想いは強いです。作業療法を提供させてもらう目の前の対象者は、自分とは違う生活や人生を歩まれています。想像してもやはり経験不足でカバーできない事も多々あるからこそ、少しでも想像力を膨らませられるように自己体験を生かし、考え方や捉え方、対応方法などを提供できたらと常に思っています。

上記の経歴からは、経験が多い面をプラス評価していただける一方で、中途半端とマイナス評価をされることもあると思います。けれど、「それはそれで良し」と自分に言い聞かせています。世の中は「ダイバーシティ」や「多様性」などの言葉が注目を集める時代になっています。考え方や生き方も人それぞれです。物事には必ず二面性があるので、そのことを意識できていたら、上記の様な他者評価を受けても打たれ強く切り抜けられます。

そろそろ話を冒頭に戻して、「どんな作業療法士を目指したい?」の質問に自分が返答すると、最近では『作業療法士としてジェネラリストを目指したい』と考えています。スペシャリストが大事なのは実感していますが、目の前にいる対象者へ常に自分の得意とする分野ですべてを対応できるわけではありません。だからこそ、よりジェネラルであろうとすることが、対象者への支援をより効果的にできると考えます。そういう想いがあるからこそ色々な経験を積みみたいし、色々と首を突っ込みたいんでしょうね。時々しんどくなりますが、『これも我が人生』と思い、背筋伸ばして頑張っていきたいです。これからの作業療法士を取り巻く環境は、時代とともにどんどん変化していくと思います。だからこそ、生活というテーマにアプローチする作業療法士も、時代に合わせ変わっていく必要があります。ぜひ、自分の強みを活かしている作業療法士を、皆さんそれぞれが見つけて目指してもらえたらと思います。一緒に頑張りましょう!

## No.37 まるがめ医療センター

## 大平 恵理子

(11年目)



OTになり、気づけば11年経ちました。主に小児部門で働かせていただいています。知識も経験もまだまだで、この関わりでいいのか悩むことも多いです。想いをもって、取り組んでいても周りには理解してもらえないこともあります。

ここにいてもいいのかな、なんて思うこともあるけれど、向かいあっているお子さんに、少しでも自身をもてるように関わっていきたいとの想いはブレないようと思っています。子供は大人の方とは違って、とても素直です。そこに難しさがありますが、やりがいも感じます。

私達が関わるのは、長い人生でほんの一瞬です。その短い関わりの中で、少しでも笑顔を作れたらと思っています。評価や技術はもちろん大事です。でもそれ以上にこの子に、その人にどうなってほしいか、自分よがりではなく寄り添った作業療法士でありたいです。



## 長期入院患者の 地域移行支援導入から退院までを経て

三光病院 福田 恵理

平成28年に香川県より委託を受け、現在では“精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業（地域移行・地域定着推進事業）”に取り組んでいる。月に一度、院内でワーキンググループを実施し、地域移行における課題を抽出し、検討した。これにより、退院意欲が乏しい方や家族の反対が阻害要因となる方など、様々な理由で入院が長期化しているケースは少なくないことが当院の課題としてみえてきた。そこで、多職種で退院支援プログラムを発足し、患者の気持ちの変化や退院意欲に繋がることを期待し、周りにたくさんの支援者がいることを知ってもらう目的にて実施していった。



その中で退院に対して前向きに考えるようになった50歳代男性に対しアプローチを開始。しかし、家族の反対があり、病院だけではできることに限界があった。そこで“地域移行支援事業”というサービスを活用し、地域や行政にも加わってもらい、多職種がいろんな視点・役割を担って患者とその家族に関わりを持ち、入院中から新しい生活の準備を行なうことで円滑な移行を目指すことを目的として導入。

OTでは朝食作りや公共交通機関の利用方法を習得、余暇を過ごす場所の開拓など、本人の希望に寄り添いながら、退院後の生活をイメージした練習を実施。また、コミュニケーションの未熟さも課題としてあがり、交換日記をつけていくことで自分の想いを文章に書いて言葉にしたり、他者とのやりとりでどう対応すれば良かったかなどを一緒に振り返り、次に繋げていく練習をした。

家族の対応はPSWが窓口となり、地域や行政とも連携し、ケア会議や面談などで家族の想いを傾聴しながら、時間をかけて介入していくことで退院に対して変化が得られていった。

退院して1ヶ月。今では自分でごはんが炊けるようになり、自由に外出し、生き生きとした生活を送っている。

「地域移行支援事業を使ってよかった」と言葉もあり、今後も本人の望む未来を歩めることを願う。



## クリニックでの療育

作業療法士 安東 直美 鎌田 千香

「むらかわクリニック」は平成28年4月に開院しました。

一般小児科診療を行うとともに、発達外来にて気になる子どもたち、最近問題となっている発達障がいや不登校、心身症などの診療が行われています。

受診後、臨床心理士を中心に発達検査を行い、医師の指示のもと、言語聴覚士、作業療法士が療育を開始し、看護師を含め皆がチームとなってサポートしていく体制をとっています。

作業療法では、就学前の子どもたちを中心に関わっています。未就園児・年少までは、感覚統合をベースとした活動や遊びを個別療育中心に行っており、日常での過ごし方や遊び方等を保護者の方と一緒に考えています。年中・年長になると、社会性や就学を意識したグループ療育を行っています。

また、地域に根ざした療育機関のひとつとして、幼稚園・保育所の先生方との連携・協力も模索しながら行っている現状です。



No.19

# 病院紹介

西山脳神経外科病院



当院は坂出市に平成元年に設立され、今年で30周年を迎えます。現在OTは病院（入院・外来・訪問）に7名、通所リハビリに9名が勤務しております。

地域に根ざした医療が提供できる病院をモットーに、急性期から在宅生活までフォロー出来るよう積極的にリハビリテーションを行い、身体機能の回復、及びADLの再獲得に努めております。また、脳卒中後遺症による運動麻痺を改善させるリハビリテーションとして注目されている経頭蓋磁気刺激治療、サイバニクス技術を駆使したロボット治療、筋痙縮緩和の効果を得られるボツリヌス治療にも力を入れております。

また、超高齢化社会となった現在、在宅でも安心して有意義な生活を送って頂けるよう、通所リハビリ、訪問リハビリを積極的に行っております。認知症に対しても、青春塾（回想法・園芸療法など）と称した認知症リハビリに取り組んでおります。



## 県内の運転支援について

香川県立中央病院 リハビリテーション部 作業療法科 **高橋 宏暢**



香川県作業療法士会では平成30年度より「運転と作業療法特設委員会」が発足し、今年度より活動を開始します。近年、自動運転の実証実験も開始されており、近い将来、車に乗ることができれば移動が保障される時代が来ると言われています。しかし現状としては社会の高齢化に伴い、アクセルとブレーキの踏み間違いや高速道路での逆走による痛ま

しい事故が数多く報告され、運転支援や移動支援に対する関心が高まっています。日々の臨床の現場でも患者さんから運転再開の希望があっても、「何を評価すればよいか分からない。」「何から手をつけてよいか分からない。」というのが、私たちの現状ではないでしょうか。そこで運転と作業療法特設委員会では、県内での運転支援の実態調査のためのアンケートと研修会を実施する事となりました。ご協力いただけると幸いです。

また当院では平成29年にドライブシミュレーターが導入され、リハビリテーション科医師を中心に私たち支援者が運転支援に関する知識を習得することと他施設との連携を図るため、「かがわ運転支援勉強会」を設立しました。この勉強会は2ヶ月に1回のペースで実施されており、各病院の取り組みの発表や事例検討だけでなく、改造業者や自動車学校の教官の方にもご講演いただいています。他施設の方との情報交換もできるので、気軽に参加していただければと思います。

まだまだ手探りの状態ですが、運転支援や幅広い移動支援を作業療法士の皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

## 連載企画 6 第三弾

# 学校で働く作業療法士

## 「教員場面でのOTとして感じること」

### 第3話

穴吹リハビリテーションカレッジ 作業療法学科 山下 良二

臨床場面で学んだ作業療法の知識や技術を、若い学生に伝えたいと思い教育の道に進みました。ただ、学校では作業療法の知識や技術だけでなく社会人としての常識や心構えなどについても指導しています。作業療法士の育成だけでなく、ひとりの人間に対する育成も行っている感じです。

2020年度から養成校の教育カリキュラムや実習の形態が大きく変わります。より専門的になり、実習でも診療参加型の形態になります。ただ、大きく変わっていく中でも作業療法を行うひとりの人間として育成していくことは変わらないと思っています。

先日、卒業生に対象者の方の治療について相談を受けました。学生の時はそのまで意欲的ではなかったのに、対象者の方をなんとかしたいという気持ちが強く伝わりました。その顔を見てひとりの人間としても成長しているなあと感じました。大変なことも多いですが、ひとりの人間としての成長がみれた時に教員の仕事に就いて良かったなと感じています。



## 第20回 香川県作業療法学会 **ご案内**

拝啓 青葉の候、会員の皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じ上げます。

平素は(一社)香川県作業療法士会の活動に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、第21回香川県作業療法学会を下記の通り開催する運びとなりました。本学会が専門職としての知識研鑽と相互の情報交換、学術向上の場として会員の皆様が交流でき有意義な会と成り得るよう、運営委員一同、学会の成功に向けて努力いたしております。つきましては、ご多忙中とは存じますが、多数の皆様のご参加と演題のご応募を宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

1. テーマ 『Various Occupational therapy  
～こんな作業療法しています～』
2. 会期 令和2年 **1月19日** 日 9:00～16:00
3. 会場 **丸亀市綾歌総合文化会館アイレックス**  
(香川県丸亀市綾歌町栗熊西1680)
4. 内容 (予定) ◎特別講演  
◎一般演題  
◎シンポジウム  
◎企業展示
5. 参加費 会員:1,000円、非会員:8,000円、他県士会員:4,000円、  
他職種・一般:2,000円、学生:無料
6. 生涯教育ポイント 2ポイント
3. 主催 一般社団法人 香川県作業療法士会

以上

<第21回香川県作業療法学会 運営委員会 事務局>

プライマリケア訪問看護ステーション 西田典真

〒760-0080 香川県高松市木太町1862-9

TEL:087-813-3515/FAX:087-813-3516 E-mail:kagawaot20@yahoo.co.jp

New!

## リレーエッセイ

吉田 俊二  
(キナシ大林病院)糸川 洋介  
(森川整形外科病院)指山 真希  
(松井病院)

私が作業療法士になり松井病院で働き始め6年目となりました。職場はみんな仲が良く明るい雰囲気です。毎日楽しく仕事をしています。当院は急性期病棟、回復期病棟、医療療養病棟、介護療養病棟があり、私は今年度から回復期病棟の専従療法士として勤務しています。まだまだ分からないことがたくさんあり悩むことも多いですが先輩方の背中を追いかけて、たくさんの方の経験・勉強をしています。

作業療法士という仕事をして一番よかったなと思うことは、患者様が元気になっていく姿を間近で見れること、そして笑顔や感謝の言葉を頂けることです。回復期病棟は365日リハビリを行っているため患者様は休みがありません。しんどいことは重々承知です。それでも毎日頑張ってリハビリに参加してくれること、「ありがとう」「できるようになったよ」の言葉を頂くたび私も元気になることができます。戸惑うこともあり、日々悪戦苦闘していますが、これからも成長できるよう私らしく頑張っていきたいと思っています。



# 広告掲載についてのご説明

## 1.「(一社)香川県作業療法士会ニュース」について

作業療法、(一社)香川県作業療法士会の広報を主な目的に、年3回発行。会員・会員施設・関係団体など各号約800部を送付しています。

## 2.広告のサイズと料金(1掲載につき)

1 ページ	たて 24cm× よこ 16cm	40,000 円
1/2 ページ	たて 12cm× よこ 16cm	20,000 円
1/4 ページ	たて 12cm× よこ 8 cm	10,000 円

(一社)香川県作業療法士会賛助会員はそれぞれ半額となります。

## 3.広告の原版について

鮮明なものに限ります。写真・マークなども掲載できます。

いただいた原版はそのまま印刷されますので、サイズに収まるよう作成し、期日までにお送りください。(原版1部、コピー1部)

\*ただし印刷の都合上若干、形などが変わることがあります。

期日(最終原版締め切り)は発行予定の1ヶ月前とさせていただきます。

## 4.掲載までの手順

- ①書類をご確認の上、申込用紙・原版・原版のコピーをお送りください。
- ②広告掲載料の振り込みをお願いいたします。
- ③掲載された県士会ニュースをお送りいたします。

### 原版送付先

〒761-2393 香川県綾歌郡綾川町滝宮 486

### 滝宮総合病院

リハビリテーション科 作業療法士 木村勇介

ご不明な点がございましたら

滝宮総合病院 作業療法士 木村勇介 までご連絡ください。

TEL **087-876-1145** FAX **087-876-1302**

## 入会

小川 志乃 (四国こどもとおとなの医療センター)  
 荒井 真 (西川クリニック)  
 柴原 章平 (香川県立中央病院)  
 山田 孝明 (訪問看護ステーションRe・Home)  
 佐藤 弘朗 (赤沢病院)  
 吉田奈緒子 (自宅)  
 山下 誠剛 (三船病院)  
 山口 真弘 (西紋病院)  
 露口 誓子 (赤沢病院)  
 橋本日向子 (かがわ総合リハビリテーション事業団)  
 宮崎 彰子 (かがわ総合リハビリテーション事業団)  
 内川 大蔵 (三豊総合病院)  
 高石 真奈 (西山脳神経外科病院)  
 星川 凜太 (西山脳神経外科病院)  
 難波 良介 (総合病院 回生病院)  
 大浦 敦樹 (香川大学医学部附属病院)  
 辛島 友希 (キナシ大林病院)  
 鷺岡 実佐 (三宅リハビリテーション病院)  
 吉木 友紀 (三宅リハビリテーション病院)  
 亀井 司 (高松協同病院)  
 堀切 咲季 (しおかぜ病院)  
 神原 ゆい (しおかぜ病院)  
 成 昌紀 (アーチ訪問看護)  
 鎌倉奈津子 (回生病院)  
 荻田ひなの (高松協同病院)  
 齋藤 祐香 (三宅リハビリテーション病院)  
 森永明日香 (橋本病院)  
 柘谷 阿実 (橋本病院)  
 若宮 弘通 (かがわ総合リハビリテーションセンター)  
 八木 洋樹 (創心会リハビリ倶楽部高松中央)  
 寺井 翔一 (こころの医療センター五色台)  
 宮本 公樹 (いわき病院)  
 上江洲太晟 (高松協同病院)  
 前田 憲人 (こころの医療センター五色台)  
 小井手亜妃 (三豊総合病院)



## 退会

田村 佳弘 (介護老人保健施設 ひまわり)  
 中 久美子 (自宅)  
 松本 尚士 (有料老人ホーム ネムの木)  
 大澤奈都光 (岡病院)  
 山下 修司 (特別養護老人ホーム 華)  
 白石 武士 (三豊市立西香川病院)  
 香川 久圭 (三豊市立西香川病院)  
 奥田 麻美 (ブルースカイ松井病院)  
 福井ゆき子 (介護老人保健施設 瀬戸荘)

## 異動

瀬本 香織 (総合病院 回生病院) ▶高松市立みんなの病院  
 馬場 広志 (かがわ総合リハビリテーション事業団)  
 ▶専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ  
 藤田 元 (高松平和病院)  
 ▶リハビリ訪問看護きらっとテラス  
 小椋 昌美 (独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター)  
 ▶国立病院機構 高松医療センター  
 赤松めぐみ (香川県立白鳥病院) ▶香川県立中央病院  
 武田 美幸 (香川県立中央病院) ▶香川県立白鳥病院  
 鎌田弥加恵 (自宅) ▶訪問看護ステーションうらら  
 紙本 晋 (キナシ大林病院) ▶三豊総合病院  
 久米健太郎 (自宅) ▶高松市地域包括支援センター  
 栗山 和子 (高松協同病院) ▶訪問看護ステーションうらら  
 中村 守 (介護老人保健施設まゆみの里)  
 ▶独立行政病院地域医療機能推進機構 りつりん病院  
 三木 智代 (橋本病院) ▶社会福祉法人 はがみ苑  
 高橋 直利 (太田クリニック)  
 ▶シニアライフアシスト ロイヤルケア 高松

## ■ (一社)香川県作業療法士会ニュース No.77 ■

編集長: 木村勇介 編集委員: 水口未紅・安藤瑞基・村上太気・善相原健史・瀬知杏奈・大島祐輝  
 細谷かぐや・金倉由美・田村綾香・宇佐川雄太・平尾芹奈・菊池英里